

## 第9章

# コロナ禍のNWEC情報事業の記録

森 未知

### 1 はじめに

国立女性教育会館（以下、NWEC）は、埼玉県からの要請を受けて宿泊棟への新型コロナウイルス感染症無症状者・軽症者の受け入れを2020年6月～8月、2021年1月～2022年7月の間行った。宿泊棟は事務室、女性教育情報センター（以下、情報センター）・女性アーカイブセンター（以下、アーカイブセンター）のある本館に接しており、事務室は研修棟に移動、情報センター・アーカイブセンターは休室を余儀なくされた。

本稿ではこの3年弱のコロナ禍の情報事業について記録しておきたい。

### 2 コロナ禍の始まりから無症状者・軽症者受け入れまで

2020年2月～2020年5月

#### 第1回緊急事態宣言

新型コロナウイルス感染症は、日本では2020年1月中旬に最初の感染者が確認され広がっていった。NWECでは2月初旬頃から施設利用者のキャンセルが増加した。2月28日にはレストランのランチ営業を休業、新規施設利用者の受け入れを停止した。その後、3月3日から内部会議の出席者数を絞り、3月6日テレワーク実施要領を改正し、非常事態発生時の特例を定

めた。3月26日から都内在住及び都内を通して通勤する職員は原則テレワークとなり、4月3日電車通勤者への時差出勤が推奨された。4月7日の緊急事態宣言を受け、4月11日から情報センター・アーカイブセンターを休館することとなった。また4月9日政府からの協力要請により、出勤者を半分以下に、さらに15日には出勤者を7割削減することとなり、情報課は当時職員10名と新聞担当アルバイト4名、アーカイブ担当アルバイト3名であったが、原則1日2名、その他はテレワークとなった。

### 出勤者1日2名体制での仕事

NWECの情報事業は、専門図書館である情報センターの男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する資料・情報の収集・整理・提供、女性情報ポータル“Winet（ウイネット）”（以下、Winet）のポータル並びにデータベースの整備充実、アーカイブセンターの女性アーカイブの収集・整理・提供、展示、研修、eラーニングによる教育・学習支援の推進からなっている。

情報センターでは、図書・地方行政資料約14万冊、雑誌約4千タイトル、そしてNWEC開館1977年からの新聞クリッピング（2019年度に50万件超）を所蔵し、閲覧、貸出（来館での館外貸出、図書館間貸出、パッケージ貸出）、文献複写サービス、レファレンス等で提供している。

新聞クリッピングは見出し、人名、新聞名、発行日、キーワード等を入力し、データベース化して提供している。全国紙5紙（朝日、日経、毎日、読売、産経）は館内で毎日クリッピング作業（記事選定、切り抜き、台紙貼り）しデータベース化を行っており、ほぼタイムラグなく提供している。全国紙5紙の大阪版、埼玉新聞と東京新聞以外の地方紙計50紙は外注しており、台紙に貼った状態で週1回届き、データベース化は同様に館内で行っている。埼玉新聞・東京新聞のクリッピング作業は館内で行っているが、データベース化は2020年1月から外注している地方紙の日付と合わせて行うことにした。

情報センター、アーカイブセンターともに現物が無いとできない仕事が多く、1日2名の出勤者でどうするか苦慮したが、全国紙クリッピング作業の

台紙貼りまでを極力省力化して行い、その後の登録番号ナンバリング、入力作業は比較的近くに住む車通勤の職員がテレワークで行った。その他出勤しないといけない相互貸借、文献複写、レファレンスに対応したが、この時期は大学図書館、公共図書館も閉館したところが多く、依頼は少なかった。同様に出勤しないといけない図書、雑誌の受入れ・登録等は担当者が出勤したときに行った。週1回程度出勤の電車通勤者と新聞担当アルバイトはテレワークで、9ヵ月分ほど溜まっていた地方紙の入力を行い、タイムラグは最短2ヵ月程度となった。アーカイブ担当アルバイトは、通常は現物から行う目録作成をデジタル画像から行う、また著作権切れのデータの確認等を行った。

この他にテレワークで行った仕事は、選書、パッケージ貸出リスト作成、和雑誌記事入力、web上で公開されている雑誌の確認、統計データベースの更新データチェック、女性関連施設データベースのデータ承認作業等である。職員間の連絡はグーグルドライブで日誌を共有、必要に応じてビデオ会議やチャットで行った。

### 研修棟への事務室移動

埼玉県からの要請により6月から宿泊棟にコロナ無症状者・軽症者を受け入れることになったため、5月8日、宿泊棟と隣接する本館事務室を、離れた研修棟に移動することとなり、引っ越し準備のため出勤者増が認められた。持っていくものは必要最小限(最小限度の書類と、各自引き出し1台)とされた。

当初は本館への立ち入りは原則できないということであったため、サービスを極力低下させないよう、課内で研修棟に移動させる資料を検討し、以下を持っていくこととした。

- ・精選した参考図書、一般図書
- ・この時点で決まっていたパッケージ貸出用図書
- ・NWEC 刊行物
- ・雑誌は2階に配架している現在受け入れているもの、コアなものはバックナンバーもすべて

新聞クリッピングのファイルも持っていきかかったが、置き場所がないということで断念せざるをえなかった。また新聞は精査できなかったため、CiNiiでは当館のみ所蔵の『友の新聞』の複写依頼に応えられないということが起きた（9月以降に対応）。

また、残していく資料への対策として、6月梅雨から夏の気温・湿度が最高の時期であったことから、カビが生えないよう、情報センターは通常と同様に9～17時、冷房を入れてもらうよう依頼した（アーカイブセンターは除湿器24時間稼働。エアコンも5～10月は24時間稼働）。

### 3 研修棟への移動から日帰り利用の再開まで

2020年6月～2020年12月

緊急事態宣言は5月25日に解除され、6月からは出勤者3割までの制限がなくなった。事務室は101・102研修室に事業課、情報課、研究国際室が入った。研修棟入口、1階・2階ラウンジに設置していた情報センター出張コーナーや情報センターから運んだ小型書架を、入口と101・102、102近くの西側階段下に設置し、入口には一般図書と雑誌、101には新聞クリッピング（新しいもののみ）、102に参考図書・NWEC出版物・雑誌バックナンバー、階段下にはミニコミ・パッケージ貸出用図書を配架した。

本館入口の書架に4半期ごとにテーマを変えて現物資料を展示していた情報センターテーマ展示は、7月の「北京+25～第4回世界女性会議（北京会議）から25年」はブログを使いオンライン展示を行った（この展示は12月までとし、9月再開時に本館で現物を展示）。

また、全館休館で本館にも立ち入れないことから、何かできないかがないかを検討し、紀伊國屋書店が提供する日本語学術書の電子書籍サービスKinoDenのトライアル（導入は翌2021年5月）、アーカイブセンター企画展示「女性と医学展」のオンライン展示ページの作成、自宅から使えるWinetの各データベースやWeb文献複写サービスの使い方を作成、SNS等で

広報した。

無症状者・軽症者受け入れ待機は、幸い1人も受け入れることがなく8月末でいったん終了し、9月から日帰り利用を再開することとなった。情報センター・アーカイブセンターは以下のコロナ対策のうえ、9月9日から平日のみ再開した。

- ・カウンターへのアクリルパネル設置
- ・隣り合った席の間引き、利用者用パソコンの台数減
- ・換気
- ・職員のマスク着用
- ・利用後の資料の1日別置
- ・利用者へのマスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンスのポスター設置
- ・机、パソコンの消毒

またこの時点では無症状者・軽症者受け入れが再開される可能性があり、事務室は戻さなかったため、情報課職員のみが本館と研修棟を行き来することとなった。研修棟に配架した資料もすべては戻さなかった。

アーカイブセンター展示室は、会期中で臨時休室となった企画展示「女性と医学展 ～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ」を9月9日～10月11日アンコール展示し、10月16日から所蔵展示「北京+25～第4回世界女性会議から25年～展」を開始した（当初翌2021年4月22日までの予定であったが、2020年12月28日で終了）。

11月にオンラインで開催されることとなった「図書館総合展」に、ポスターセッションと図書館見学会\_ONLINEで参加した。オンライン見学会用に作成した情報センター案内動画は、現在もYouTubeのNWEC Channelで提供している。また同様にオンライン開催となった「図書館と県民のつどい埼玉2020」でもオンライン展示を行った。

パッケージ貸出はコロナ禍で利用や申し込み、新規申し込みの資料の準備がどうなるか心配された。各地の図書館が一時休館となり利用者が実際に本

を手に取る機会が減った、個別パッケージの利用を検討していた機関がいくつか利用を見送るということがあったが、2020年度の利用は37機関と、2019年度の41機関から大きく減ることはなく、9月の再開で年間パッケージの入替や、その後の個別パッケージへの対応も行うことができた。

NWECの研修は2020年度すべてオンラインで実施することとなり、アーカイブ保存修復研修も初めてオンラインで実施した。実技コースは行えずライブ配信の参加者は24名と少なかったものの、オンデマンド配信は122名と多くの参加者を得ることができた。

#### 4 無症状者・軽症者受け入れ再開から本館に戻るまで

2021年1月～2022年8月

2020年12月感染者が増加し、NWECは再び2021年1月から無症状者・軽症者受け入れを行うこととなった。2020年の受け入れの際は全館休館とし、一般利用者の出入りを原則禁止したが、年末の時点では、2021年1月以降は研修棟、実技研修棟、体育施設の利用者は入れるとしていたため、情報センター資料の利用希望者は予約のうえ来館可能という案内をしていた。しかし2021年1月7日、2度目の緊急事態宣言が東京、神奈川、埼玉、千葉の首都圏4都県に出され、当初2月7日までの期間中は既に予約を受け付けている方・団体以外の利用は不可となった（この緊急事態宣言は3月21日まで延長）。

来館しての利用は再び不可となったが、1月以降は職員が本館に立ち入ることは可能となったため、ラウンジとC棟書庫以外の資料は取りに行くことができ、貸出、複写サービスはほぼ対応できることとなった。

この間、1月からの情報センターテーマ展示「今、フェミニズム～声を上げる、行動する、変える～」は、オンライン展示とともに研修棟講堂横の書架を使って展示した。またブラウザの進化やスマートフォン等の普及に対応し、よりユーザアクセシビリティを高めるために2020年度に進めていた

Winetのトップページ、女性関連施設データベース、女性情報ナビゲーション、女性のキャリア形成支援サイトを3月末リニューアル公開した。

3月21日緊急事態は一旦終了したが、4月25日からは東京都等にまた緊急事態宣言が出され区域を広げながら延長され、埼玉県は8月2日に再び緊急事態となり、1月と同じく既に予約を受け付けている方・団体以外の利用は不可とした。この宣言も延長され、9月30日まで続いた。10月1日の解除後は、予約のうで情報センター資料の来館利用ができるようになった。2022年の年明け、また感染者が増加し、1月21日に埼玉県はまん延防止等重点措置を実施すべき区域となった(3月21日まで)が、飲食店と大規模イベントへの制限であったため、NWECの利用受け入れ形態は変わらなかった。

2020年度から2年計画であったWinetリニューアルで残っていた、文献情報データベースを8月末に、女性情報レファレンス事例集、全国女性アーカイブ所在情報データベース、女性と男性に関する統計データベースを9月に公開した。

パッケージ貸出は2021年度は35機関と少し減ったが、新規で大学のゼミによる利用があり、貸出資料を参考にした読書案内動画の作成が行われ、2021年度の男女共同参画フォーラムへの出展につながった。また企業の利用もあり、この企業も2022年度の研修事業への参加やフォーラムに出展いただいている。

アーカイブは展示・閲覧ができなかったため、女性デジタルアーカイブシステムの充実を図り、6月末「近代～現代女性史年表」に2019年までの年表を追加公開、7月に新規資料群「戦時下勤労働員少女の会資料」、9月に新規資料群「日本女性学習財団資料」、翌2月には「ベアテ・シロタ・ゴードン資料」の全目録と一部画像を公開、3月末に過去の所蔵展示のオンライン展示「北京+25展」「ベアテ・シロタ・ゴードン展」を作成、公開した。

アーカイブ研修は第5期中期計画にあたり見直し、名称を「女性アーカイブ研修」として、2021年度もオンラインで実施した。ライブ配信の全日程

参加は19名であったが、オンデマンド配信は120名の応募があった。

2022年7月末に無症状者・軽症者の宿泊施設利用が終了し、職員も本館へ戻ることとなり、引っ越しの準備を行った。引っ越しは7月16～18日の3連休に行くこととなり、14日～31日は来館利用を中止し、非来館での文献複写、相互貸借、レファレンスといったサービスはできる限り応じつつ、資料の搬出・搬入、配架を行った。

アーカイブセンター展示室は、4月の萩原なつ子新理事長就任に合わせ、歴代館長・理事長6人とNWEC45年の歩みを振り返る「国立女性教育会館開館45周年展」を開催することとし準備を進めた。

## 5 情報センター・アーカイブセンター再開

8月1日から情報センター・アーカイブセンターを再開した。土日祝日の情報センターは、12～13時を当面の間、閉室としている。休館前の利用には戻らないが、情報センターのスペースと、書架、雑誌架、新聞架があることで資料が見やすく、使いやすいことを実感している。図書・雑誌の配架や、目録の修正等、まだやらなければならないことは山積しているが、より利用されるよう整備を進めていきたい。

(もり・みち 国立女性教育会館情報課専門職員)